

令和 2 年 度

第 64 回 簿 記 検 定 試 験

1 級 (原価計算)

問 題 用 紙

(制限時間 1 時間30分)

(令和 2 年12月13日施行)

— 受験上の諸注意 —

- ・ 答案はすべて答案用紙に記入すること。
- ・ すべての答案用紙に受験番号を記入すること。
- ・ 赤字で記入すべきところは赤ペン、赤鉛筆を用いること。
- ・ その他答案の作成にあたっては、教科書に基づき日頃学校で指導を受けている記帳の方法によって、正確・迅速・整然と記帳すること。

佐賀県高等学校教育研究会商業部会主催

1

下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現金	売掛金	製品	A組製品
B組製品	素材	買入部品	消費材料
建物	建物減価償却累計額	買掛金	売上
雑益	売上原価	減価償却費	棚卸減耗損
仕損費	製造	第1工程製造	第2工程製造
材料消費価格差異	賃率差異	本社	工場

(1) 月末における買入部品の実地棚卸高は280個であった。よって、次の買入部品に関する当月の資料にもとづいて、買入部品勘定を修正した。ただし、消費単価の計算は総平均法によっている。

前月繰越高	900個	@¥700	¥630,000
当月仕入高	3,600個	¥750	¥2,700,000
当月消費数量	4,200個		

(2) 当月の素材の消費高について、次の資料を得たので、予定価格による消費高と実際価格による消費高との差額を材料消費価格差異勘定に振り替えた。ただし、素材は @¥610 の予定価格を用いており、消費材料勘定を設けている。

素材消費数量	8,500kg	実際価格	@¥630
--------	---------	------	-------

(3) 組別総合原価計算を採用している小城製作所における2月分の製品の販売に関する資料は、次のとおりであった。よって、売上高および売上原価を計上した。

	A組	B組
売上高(掛け)	¥6,100,000	¥3,700,000
売上製品製造原価	¥3,985,000	¥2,340,000

(4) 個別原価計算を採用している鳥栖製作所では、製造指図書#7の製品の一部が仕損じとなり、新たに製造指図書#7-1を発行して代品を製造していたが、本日、代品が完成したので仕損費を計上した。なお、各製造指図書に集計された製造原価は次のとおりであり、仕損品の評価額は零(0)である。

製造指図書#7	¥4,200,000	製造指図書#7-1	¥280,000
---------	------------	-----------	----------

(5) 武雄工業株式会社は、月末にあたり、工程別総合原価計算表を作成し、各工程の完成品原価を次のとおり計上した。ただし、当社では第1工程の完成品原価をすべて第2工程製造勘定に振り替えている。

第1工程	¥3,460,000	第2工程(最終工程)	¥4,920,000
------	------------	------------	------------

(6) 工場会計が独立している嬉野工業株式会社の本社は、決算にさいし、建物の減価償却費 ¥1,830,000 を計上した。ただし、このうち ¥1,270,000 は工場の建物に対するものであり、建物減価償却累計額勘定は本社のみ に設けてある。(本社の仕訳)

(7) 会計期末にあたり、賃率差異勘定の残高を売上原価勘定に振り替えた。なお、賃率差異の前月繰越高は、¥3,200(借方)であり、当月の賃金の実際消費高は予定消費高より ¥1,500 多く、この額は賃率差異勘定に振り替えられている。

2

有田製作所は、等級別総合原価計算を採用し、1級製品と2級製品を製造している。なお、同社では、単純総合原価計算によって総合原価を計算した後、等級別製品の原価を計算している。下記の資料と製造勘定によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) 単純総合原価計算表を完成しなさい。
(2) 等級別総合原価計算表を完成しなさい。
(3) 等級別製品が完成したときの仕訳を示しなさい。

ただし、i 素材は製造着手の時にすべて投入され、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。

ii 月末仕掛品原価の計算は平均法による。

iii 等価係数は、各製品の1個あたりの重量を基準とする。

資料

- a. 月初仕掛品原価 ¥130,000
(うち、素材費 ¥85,000 加工費 ¥45,000)
b. 当月製造費用(一部)
①減価償却費 年間見積額 ¥708,000
②電力料 当月支払高 ¥110,000
当月測定高 ¥97,000
c. 月末仕掛品 400個(加工進捗度 40%)
d. 完成品数量 2,000個
e. 各製品の重量と等級別完成品数量

	1個あたりの重量	完成品数量
1級製品	120g	1,450個
2級製品	80g	550個

製造	
前月繰越()	諸口()
素材 947,000	次月繰越()
工場消耗品 74,000	
賃金 893,000	
給料 220,000	
健康保険料 34,000	
減価償却費()	
電力料()	
雑費 3,600	
()	()

3

(1) 次の各文の()のなかに、下記の語群のなかから、もっとも適当なものを選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

a. 変動費とは、(ア)の変動にともなって、その発生総額も比例的に増減する原価要素をいい、たとえば(イ)や出来高払賃金などがある。

b. 原価計算を行うときに、製造直接費は特定の製品との関連が直接的で明確であるので、消費高をその製品に直接集計することになる。この手続きを(ウ)という。これに対して、製造間接費は、各種の製品について共通に発生するため、各製品に配分しなければならない。この手続きを(エ)という。

〔語群〕

1. 直接材料費 2. 減価償却費 3. 配賦 4. 賦課
5. 操業度 6. 製造間接費 7. 生産力 8. 部門別計算

3 (2) 伊万里製作所における下記の貸借対照表（一部）と資料により、製造原価報告書に記載する次の金額を求めなさい。

a. 当期材料費 b. 当期労務費 c. 当期経費 d. 当期製品製造原価

貸借対照表（一部）

令和〇年3月31日

副産物	78,000	未払賃金	251,000
材料	206,000		
仕掛品	395,000		

資料

- ① 素材 期首棚卸高 ¥260,000 当期仕入高 ¥1,575,000 期末棚卸高 ¥
- ② 工場消耗品 期首棚卸高 ¥19,000 当期仕入高 ¥204,000 期末棚卸高 ¥35,000
- ③ 賃金 当期予定消費高 ¥
- 前期末払高 ¥176,000 当期支払高 ¥1,940,000 当期末払高 ¥
- 予定賃率を用いており、賃率差異 ¥52,000（貸方残高）がある。
- ④ 給料 当期消費高 ¥208,000
- ⑤ 従業員賞与手当 当期消費高 ¥245,000
- ⑥ 外注加工賃 前期末払高 ¥18,000 当期支払高 ¥235,000 当期前払高 ¥24,000
- ⑦ 電力料 当期支払高 ¥137,000 当期測定高 ¥147,000
- ⑧ 減価償却費 当期消費高 ¥295,000
- ⑨ 仕掛品 期首棚卸高 ¥436,000 期末棚卸高 ¥
- ⑩ 当期中に副産物が発生し、その評価額 ¥78,000 は製造原価から差し引く。

4 個別原価計算を採用している唐津製作所の下記の資料によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) 1/2月中の取引の仕訳を示しなさい。
- (2) 消費賃金勘定に必要な記入を行い、締め切りなさい。なお、勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。
- (3) 部門費振替表を直接配賦法によって完成しなさい。
- (4) A製品（製造指図書#1）の原価計算表を完成しなさい。

ただし、i 前月繰越高は、次のとおりである。

素材 600kg @¥1,500 ¥900,000

工場消耗品 800個 @¥60 ¥48,000

仕掛品（製造指図書#1） ¥2,030,000（原価計算表に記入済み）

- ii 素材の消費高の計算は先入先出法、工場消耗品の消費数量の計算は棚卸計算法によっている。
- iii 賃金の消費高の計算は、作業時間/時間につき ¥1,000 の予定賃率を用いている。
- iv 製造間接費は部門別計算をおこない、直接作業時間を基準として予定配賦している。

	第1製造部門	第2製造部門
年間製造間接費予算額	¥7,000,000	¥9,600,000
年間予定直接作業時間	14,000時間	24,000時間

取引

1/2月 3日 素材および工場消耗品を次のとおり買い入れ、代金は掛けとした。

素材 700kg @¥1,600 ¥1,120,000

工場消耗品 2,500個 @¥60 ¥150,000

8日 B製品（製造指図書#2）の注文を受け、素材800kgを消費して製造を開始した。

25日 賃金を次のとおり小切手を振り出して支払った。

賃金総額 ¥4,800,000

うち、控除額 所得税 ¥321,000 健康保険料 ¥189,000

3/日 ① 工場消耗品の月末棚卸数量は700個であった。よって、消費高を計上した。（間接材料）

② 当月の賃金予定消費高を次の作業時間によって計上した。ただし、消費賃金勘定を設けている。

製造指図書#1 1,200時間 製造指図書#2 2,000時間 間接作業 200時間

③ 健康保険料の事業主負担分 ¥189,000 を計上した。

④ 当月の製造経費消費高を次のとおり計上した。

電力料 ¥432,000 保険料 ¥71,000

減価償却費 ¥340,000 雑費 ¥32,000

⑤ 当月の直接作業時間は次のとおりであった。よって、製造部門費を予定配賦した。

	第1製造部門	第2製造部門
製造指図書#1	200時間	1,000時間
製造指図書#2	1,300時間	700時間

⑥ 製造間接費を次のとおり各部門に配分した。

第1製造部門 ¥592,000 第2製造部門 ¥428,000

動力部門 ¥280,000 修繕部門 ¥120,000

⑦ 補助部門費を次の配賦基準によって各製造部門に配賦した。

	配賦基準	第1製造部門	第2製造部門
動力部門費	kW数×運転時間数	1.2kW×70時間	1.4kW×40時間
修繕部門費	修繕回数	4回	2回

⑧ A製品（製造指図書#1）100個が完成した。

⑨ 当月の賃金実際消費高 ¥3,385,000 を計上した。

⑩ 賃金の予定消費高と実際消費高との差額を、賃率差異勘定に振り替えた。

⑪ 第1製造部門費および第2製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替えた。

令和 2 年 度

第 64 回 簿 記 検 定 試 験

1 級 (原価計算)

答 案 用 紙

(制限時間 1 時間30分)

(令和 2 年12月13日施行)

佐賀県高等学校教育研究会商業部会主催

1

	借方	貸方
(1)		
(2)		
(3)		
(4)		
(5)		
(6)		
(7)		

受験番号	①	②	③	④	総得点

2

(1)

単純総合原価計算表

令和〇年/2月分

摘要	素材費	加工費	合計
材料費			
労務費	—		
経費	—		
計			
月初仕掛品原価			
計			
月末仕掛品原価			
完成品原価			

(2)

等級別総合原価計算表

令和〇年/2月分

等級別製品	重量	等価係数	完成品数量	積数	等級別製造原価	製品単価
1級製品	120g		1,450個			¥
2級製品	80g		550個			¥
					2,180,000	

(3)

借方	貸方

3

(1)	ア		イ		ウ		エ	
(2)	a. 当期材料費 ¥				b. 当期労務費 ¥			
	c. 当期経費 ¥				d. 当期製品製造原価 ¥			

受験番号	②	③

4

(1)

		借	方	貸	方
/2月3日					
8日					
25日					
3/日	①				
	②				
	③				
	④				
	⑤				
	⑥				
	⑦				
	⑧				
	⑨				
	⑩				
	⑪				

受験番号	④(1)

4

(2)

消 費 賃 金	

(3)

部 門 費 振 替 表						
令和〇年 / 2月分						
部 門 費	配 賦 基 準	金 額	製 造 部 門		補 助 部 門	
			第 1 部 門	第 2 部 門	動力部門	修繕部門
部 門 費 合 計						
動 力 部 門 費	kW数×運転時間数					
修 繕 部 門 費	修 繕 回 数					
配 賦 額 合 計						
製造部門費合計						

(4)

原 価 計 算 表							
製造指図書# /							
直接材料費	直接労務費	製 造 間 接 費				集 計	
		部 門	時 間	配 賦 率	金 額	摘 要	金 額
1,130,000	600,000	第 1	600	500	300,000	直接材料費	
						直接労務費	
						製造間接費	
						製造原価	
						完成品数量	個
						製品単価	¥

④(2)(3)(4)

令和 2 年度
第 64 回 簿 記 検 定 試 験
1 級 (原価計算)

採 点 基 準

(令和 2 年12月13日施行)

4

(2)

消 費 賃 金			
12/31 賃 金	3,385,000	12/31 諸 口	3,400,000 ※
〃 賃率差異	15,000		
	3,400,000		3,400,000

(3)

部 門 費 振 替 表

直接配賦法 令和〇年 / 2月分

部 門 費	配 賦 基 準	金 額	製 造 部 門		補 助 部 門	
			第 1 部門	第 2 部門	動力部門	修繕部門
部 門 費 合 計		1,420,000	592,000	428,000	280,000	120,000
動 力 部 門 費	kW数×運転時間数	280,000	※168,000	112,000		
修 繕 部 門 費	修 繕 回 数	120,000	80,000	40,000		
配 賦 額 合 計		400,000	248,000	152,000		
製造部門費合計		1,420,000	840,000	580,000	※	

(4)

製造指図書 # /

原 価 計 算 表

直接材料費	直接労務費	製 造 間 接 費				集 計	
		部 門	時 間	配 賦 率	金 額	摘 要	金 額
1,130,000	600,000	第 1	600	500	300,000	直接材料費	1,130,000
	1,200,000	第 1	200	500	100,000	直接労務費	1,800,000
	1,800,000	第 2	1,000	400	400,000	製造間接費	800,000
					800,000	製造原価	3,730,000
						完成品数量	100個
						製品単価	37,300 ※

1

	借 方	貸 方
(1)	棚 卸 減 耗 損 14,800	買 入 部 品 14,800
(2)	材料消費価格差異 170,000	消 費 材 料 170,000
(3)	売 掛 金 9,800,000 売 上 原 価 6,325,000	売 上 9,800,000 A 組 製 品 3,985,000 B 組 製 品 2,340,000
(4)	仕 損 費 280,000	製 造 280,000
(5)	第 2 工 程 製 造 3,460,000 製 品 4,920,000	第 1 工 程 製 造 3,460,000 第 2 工 程 製 造 4,920,000
(6)	減 価 償 却 費 560,000 工 場 1,270,000	建物減価償却累計額 1,830,000
(7)	売 上 原 価 4,700	賃 率 差 異 4,700

④(2)(3)(4)
※ 4 点 × 4 = 16 点

①	②	③	④	総得点
4 点 × 7 = 28 点	(1)※ 3 点 × 4 = 12 点 (2)◎ 2 点 × 1 = 2 点 (3) 2 点 × 1 = 2 点	(1)2 点 × 4 = 8 点 (2)2 点 × 4 = 8 点	※ 4 点 × 10 = 40 点	100 点

2

(1)

単純総合原価計算表

令和〇年/2月分

摘 要	素 材 費	加 工 費	合 計
材 料 費	947,000	74,000	※ 1,021,000
労 務 費	—	※ 1,147,000	1,147,000
経 費	—	159,600	159,600
計	947,000	1,380,600	2,327,600
月初仕掛品原価	85,000	45,000	130,000
計	1,032,000	1,425,600	2,457,600
月末仕掛品原価	※ 172,000	105,600	277,600
完成品原価	860,000	※ 1,320,000	2,180,000

(2)

等級別総合原価計算表

令和〇年/2月分

等級別製品	重 量	等価係数	完成品数量	積 数	等級別製造原価	製品単価
1 級 製 品	120 g	3	1,450個	4,350	1,740,000	¥ 1,200
2 級 製 品	80 g	2	550個	1,100	440,000	¥ ◎ 800
				5,450	2,180,000	

(3)

借 方	貸 方
1 級 製 品 (1級品) 1,740,000	製 造 2,180,000
2 級 製 品 (2級品) 440,000	

3

(1)	ア	5	イ	1	ウ	4	エ	3
(2)	a. 当期材料費	¥ 1,852,000	b. 当期労務費	¥ 2,520,000				
	c. 当期経費	¥ 635,000	d. 当期製品製造原価	¥ 4,970,000				

②	③
(1)※3点×4=12点	(1)2点×4=8点
(2)◎2点×1=2点	(2)2点×4=8点
(3)2点×1=2点	

4

(1)

	借 方	貸 方
1/2月3日	素 材 1,120,000 工 場 消 耗 品 150,000	買 掛 金 1,270,000
8日	製 造 1,220,000	素 材 1,220,000
25日	貸 金 4,800,000	所 得 税 預 り 金 321,000 健 康 保 険 料 預 り 金 189,000 当 座 預 金 4,290,000
①	製 造 間 接 費 156,000	工 場 消 耗 品 156,000
②	製 造 3,200,000 製 造 間 接 費 200,000	消 費 賃 金 3,400,000
③	製 造 間 接 費 189,000	健 康 保 険 料 189,000
④	製 造 間 接 費 875,000	電 力 料 432,000 保 険 料 71,000 減 価 償 却 費 340,000 雑 費 32,000
⑤	製 造 1,430,000	第1製造部門費 750,000 第2製造部門費 680,000
3/日	第1製造部門費 592,000 第2製造部門費 428,000 動 力 部 門 費 280,000 修 繕 部 門 費 120,000	製 造 間 接 費 1,420,000
⑦	第1製造部門費 248,000 第2製造部門費 152,000	動 力 部 門 費 280,000 修 繕 部 門 費 120,000
⑧	製 品 3,730,000	製 造 3,730,000
⑨	消 費 賃 金 3,385,000	賃 金 3,385,000
⑩	消 費 賃 金 15,000	賃 率 差 異 15,000
⑪	製造部門費配賦差異 90,000 第2製造部門費 100,000	第1製造部門費 90,000 製造部門費配賦差異 100,000

④(1)

※4点×6=24点